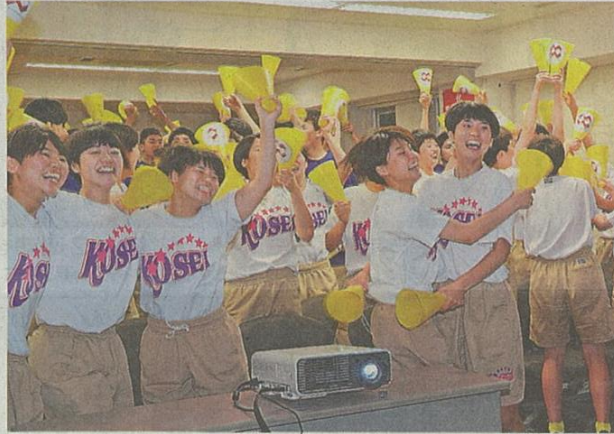


ハラハラドキドキ 勝利の瞬間大歓声

光星留守部隊

このまま、悲願の頂点へ。夏の甲子園で3回戦に進出した八学光星ナインを応援しようと、八戸市の同校では16日、男女バスケットボール部、ソフトテニス部の生徒や教職員ら約85人が、大型スクリーンが設置されたオープンスペースに集まり声援を送った。

生徒たちは甲子園のスタンドにいるかのよう、そろいの黄色いメガホンを鳴らして応援。2点を追いかける三回、8番太山選手の本塁打や4番原選手、5番大江選手の適時打で4―3と逆転すると、「やった!」「いいぞ」と大歓声が上がった。



下山選手の適時打でサヨナラ勝ちを決め、喜び合う生徒たち—16日、八戸市の八学光星高校

6番下山選手の適時打で試合が決まると抱き合ったり喜びました。

その後も加点することになり盛り上がったが、六回に同点に追いつかれ、流れをつかみきれない状況が続くと、ため息が漏れる場面も。九回裏のチャンスでは、多くの生徒が祈るようにしてスクリーンを見つめた。

ソフトテニス部の中野渡彩さん（1年）は「接戦だったが、集中力を切らさずに戦っていた」、バスケットボール部の中里瑛斗さん（3年）は「粘り強さに感動した。次の試合も最後まで頑張ってほしい」とエールを送った。（山谷佳澄）